

技術評価報告書

申込者： 合同製鐵株式会社 代表取締役社長 栗川 勝俊
大阪市北区堂島浜二丁目 2 番 8 号 東洋紡ビル 8 階

技術名称： EG 定着板工法
—EG 定着板を用いた機械式定着工法—

当法人「建築構造技術審議委員会」において慎重審議の結果、平成 25 年 3 月 21 日付けの技術評価書(SABTEC 評価 12-05)の通り、一般社団法人建築構造技術支援機構「建築構造技術検証要綱」で定めた技術基準と照らし合わせ、本技術は妥当なものであると判断されたことを報告する。

2013 年 3 月 21 日

一般社団法人
建築構造技術支援機構
代表理事 益尾 潔

建築構造技術審議委員会

委員長	窪田 敏行	近畿大学	名誉教授
委員	岸本 一蔵	近畿大学建築学部建築学科	教授
〃	菅野 俊介	広島大学	名誉教授
〃	田才 晃	横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院	教授
〃	中塚 侑	大阪工業大学	特任教授
〃	三谷 勲	神戸大学	名誉教授

EG 定着板工法 専門部会

主査	岸本 一蔵	近畿大学建築学部建築学科	教授
委員	窪田 敏行	近畿大学	名誉教授



技術評価書

申込者：合同製鐵株式会社 代表取締役社長 栗川 勝俊
大阪市北区堂島浜二丁目 2 番 8 号 東洋紡ビル 8 階

技術名称：EG 定着板工法
－EG 定着板を用いた機械式定着工法－

技術概要： 本工法は、JIS 規格異形鉄筋を用いた機械式定着工法について、GBRC 性能証明 第 01-13 号(2001 年 11 月 6 日)、改 (2003 年 1 月 14 日)、改 2(2007 年 7 月 3 日)として、(財)日本建築総合試験所の性能証明を取得している。
今回の技術評価は、(財)日本建築総合試験所・機械式鉄筋定着工法研究委員会「機械式鉄筋定着工法設計指針(2010 年改定)」(以下、GBRC 委員会指針と略記する)に準拠した「EG 定着板工法 設計指針(2013 年)」に関するものである。「設計指針(2013 年)」では、既往実験を基に、柱 RC 梁 S 混合構造、柱 SRC 梁 S 混合構造の柱主筋定着部を適用範囲に追加している。

本委員会は、一般社団法人建築構造技術支援機構「建築構造技術検証要綱」で定めた技術基準と照らし合わせ、下記の通り、本技術は妥当なものであると判断した。

2013 年 3 月 21 日

一般社団法人
建築構造技術支援機構
建築構造技術審議委員会
委員長 窪田 敏 行

記

- 評価方法： 申込者提出の下記資料によって、技術評価を行った。
EG 定着板工法 設計指針(2013 年)および実験説明資料
この資料には、本技術の目標性能達成の妥当性を確認した技術資料がまとめられている。この資料のほかに、EG 定着板製造・施工要領書および専門部会資料が提出されている。
- 評価内容： 申込者提案の EG 定着板は、鉄筋母材の規格引張強さに相当する荷重を受けても損傷せず、本工法設計指針によって設計される EG 定着板を用いた異形鉄筋定着部は、設計で保証すべき長期荷重時、短期荷重時および終局耐力時の要求性能を満足すると判断される。

技術評価内容

申込者

合同製鐵株式会社
代表取締役社長 栗川 勝俊
大阪市北区堂島浜二丁目 2 番 8 号 東洋紡ビル 8 階

技術名称

EG 定着板工法
－EG 定着板を用いた機械式定着工法－

適用範囲

- (1) 建築物の構造 鉄筋コンクリート造、鉄骨鉄筋コンクリート造、柱 RC 梁 S 混合構造、柱 SRC 梁 S 混合構造、プレストレストコンクリート造、およびそれらのプレキャストコンクリート造
- (2) 使用材料 コンクリートの設計基準強度： 21 N/mm² 以上かつ 60 N/mm² 以下
鉄筋（種類） SD295A, SD345, SD390, SD490
（呼び名） D13, D16, D19, D22, D25, D29, D32, D35, D38, D41
定着板 S45C
- (3) 適用箇所 柱梁接合部への大梁主筋の定着、柱梁接合部および基礎への柱主筋の定着、梁への梁主筋の定着、柱、梁および壁への壁筋の定着、梁への小梁主筋およびスラブ筋の定着、アンカーボルトの定着

技術評価に際して行われた実験等の概要

技術評価の際に提出された実験資料は、合同製鐵(株)が GBRC 性能証明 第 01-13 号(2001 年 11 月 6 日)、改(2003 年 1 月 14 日)、改 2(2007 年 7 月 3 日)の取得に際して行われた EG 定着板を用いた梁主筋定着部、ならびに鉄筋コンクリート造ト形、T 形、L 形接合部に関する一連の実験を基にまとめられている。

今回の技術評価で適用範囲に追加した柱 RC 梁 S 混合構造および柱 SRC 梁 S 混合構造の柱主筋定着部の目標性能達成の妥当性は、既往文献の実験を基に確認されている。

技術評価の主な審議事項

技術評価に際し、建築構造技術審議委員会での主な審議事項は、以下の通りである。

- 1) EG 定着板の製造管理方法ならびに施工管理方法の妥当性
- 2) EG 定着板を用いた梁主筋定着部、ならびに鉄筋コンクリート造ト形、T 形、L 形接合部に関する一連の実験結果の妥当性
- 3) EG 定着板 設計指針(2013 年)の諸規定の妥当性

技術評価の経過

平成 25 年 1 月 23 日開催の第 9 回建築構造技術審議委員会(以下、本委員会と略記する)において、申込者提出の技術資料について検討し、詳細検討は、専門部会を設けて行うこととした。専門部会では、本委員会での指摘事項を踏まえて修正された技術資料について、慎重に審議を行い、結果を平成 25 年 3 月 21 日開催の第 10 回建築構造技術審議委員会に報告した。

本委員会は、専門部会の報告について総括的な検討を行い、本技術は妥当なものであると判断した。

以上